

# 第8回糖尿病とこころ研究会

日時：平成24年4月7日(土) 18:30から

会場：ツインリーブホテル出雲

当番世話人：山本 昌弘 (島根大学医学部内科学講座内科学第一)

## 【ディスカッション】

「好きなものを好きなだけ食べたい!!」

安来市立病院 岡 香代子

### 《はじめに》

糖尿病患者は食事療法・運動療法・薬物療法を行いながら、仕事や家事をし、日々の生活を送っている。患者は療養行動をとりながら社会生活を送ろうとすると、様々な困難にぶつかり、治療を止めたくることがある。臨床の現場でも良く「好きなように生きて早く死んでしまいたい。」という発言をされる患者もいる。

今回、食事療法が上手くいっていない患者との会話の中で、患者から「今も我慢している。好きなものを好きなだけ食べて死んでしまいたい。もうどうなっても良い。」と怒り、涙を流しながら看護師に訴えた患者がいた。看護師は患者をどう捉え、言葉をかけるべきか一緒に考えたい。

### 《登場人物》

安来 節子：どじょっこ病院で治療中の糖尿病患者。

足立美知子：どじょっこ病院に勤務している内科医。

さぎの湯子：どじょっこ病院に勤務している看護師。

### 《事例紹介》

安来 節子 73歳 女性 2型糖尿病

元中学校教師

20年前に糖尿病と診断。10年前からインスリン注射を開始。(現在、ヒューマログミックス50%注®12-0-10 打っている)

HbA1c (JDS 値) 7.2%, 身長 158 cm, 体重 61.8 kg

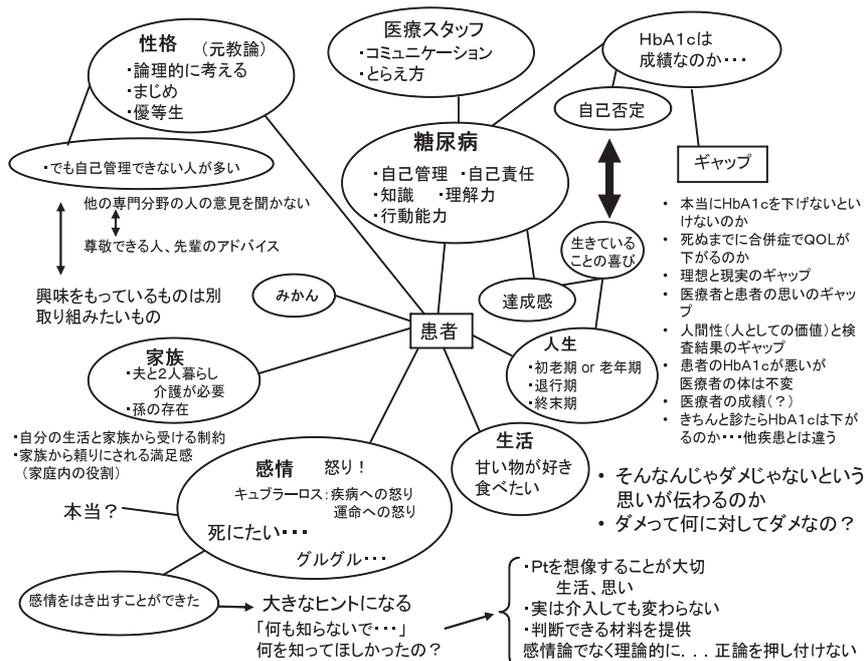
合併症：網膜症 A1, 腎症第3期 A, 神経障害あり, 頸動脈狭窄あり

夫と2人暮らし。夫, 病気療養中。介護が必要。

娘から孫の塾の送り迎えを頼まれるなど, 孫の世話をしている。

週2~3回外食している。食べることが大好きで, 特に甘いものが好き。

最近, HbA1c が徐々にあがってきている。先月, 栄養指導でも果物を控えるよう指導されている。



【特別講演】

「糖尿病療養指導における“関係性”の重要性  
～そしてエンパワーメント的考え方の勧め～」

朝比奈クリニック 朝比奈崇介

我々医療者が慢性疾患である糖尿病の患者を診ようとする時には急性疾患の治療モデルをそのまま当てはめる訳にはいかない。それは慢性疾患が治らない疾患だからである。このため慢性疾患に罹患した患者はその疾病と一生共に生きることが強いられ、医療者の治療目標は「患者のQOLが如何に低下しないで生を全うできるか」になる。

しかし多くの医療現場で糖尿病患者に一方的な食事療

法や運動療法を強いる治療を施している。もしあなたが糖尿病患者であったなら、例え失明や透析が免れるとしても、医療者に勧められた治療法が食事や運動などに関して毎日の生活を著しく低下させる治療法だとしたら、本当にそれを選ぶであろうか。

私にはその患者にとってその治療がどの程度苦痛なのか判らない。判らないからこそ常に患者の意見や価値観を訊ね、その価値観に沿って患者のセルフケア行動を支えるという立場をとることこそが我々糖尿病を診る医療者にとって必要な態度なのだと思う。